

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 上区・城内集落営農組合連絡協議会
都道府県 宮城県
対象地域 加美町（小野田地区）
対象品目 水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

水稻栽培を主体とし、一部では有機農業に取り組んでおり、環境に配慮した栽培も積極的に行っているが、慣行栽培と比べ雑草対策に労力が掛かり、年々作付者が慣行栽培へ転換し、有機米栽培の作付面積が減少している。ついでに、有機物（鶏糞や屑大豆等）を活用した化学肥料不使用栽培、中干し延長による温室効果ガスの削減、高性能の乗用除草機による省力的な除草技術の普及により、省力的な環境負荷軽減の稲作が展開していく。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	田植			中干し	出穂	収穫							
技術名	基肥・化学肥料 (N7.2kg/10a)		歩行除草										

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	田植			中干し	出穂	収穫							
技術名	堆肥＋鶏ふん orくず大豆		乗用除草	有機肥料追肥 (必要があれば)									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	88	90	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1.8	5	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.8	5	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1.8	5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料を使用	有機質肥料（鶏糞や屑大豆等）の活用	化学肥料由来の窒素量削減
環境	中干し（7日間）	中干し期間の延長（慣行より1週間程度延）	温室効果ガスの削減
省力	歩行型除草機	乗用型除草機	除草作業時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用低減	7.2	▶ 0	慣行)化学由来N7.2kg→0kg
省力	乗用除草機による除草作業	60	▶ 25	歩行型)60分/10a→25分/10a

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

加美町（小野田地区）の稲作生産者を中心に化学肥料の使用量低減や中干し期間の延長による温室効果ガスの排出削減を目指す。また、乗用除草機を活用し、除草作業の省力化に繋げていく。令和7年度から令和11年度は策定した産地戦略や栽培マニュアルを活用し、グリーンな栽培体系の普及を図る。

関係者の役割

関係者名	上区・城内集落営農組合	J A加美よつば	宮城県 (普及組織：大崎農業改良普及セン	
役割	栽培体系の実践、事業総括	技術支援	技術支援	

その他